

# 日本生活体験学習学会

## 第 19 回 研究大会 大会要項

2017年9月の研究大会は、南九州大学宮崎キャンパスでお迎えします。本学会初めての宮崎での開催になります。宮崎は、自然、歴史、文化が数多く存在し、方言や人々のつながりなど宮崎特有の良さがたくさんあります。とはいえ、子どもたちの育ちの状況では、メディア接触過多の子ども、外遊びの減少、体験活動の不足などの問題が徐々に深刻さを増している状況があります。

そこで、本研究大会において、多くの方々と「生活体験の意義と必要性」について議論し、宮崎の学びのスタートにしたいと思います。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

1. 期 日            2017年9月2日（土）・9月3日（日）

2. 会 場            <研究大会>  
                      南九州大学宮崎キャンパス  
                      （〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島5丁目1-2）  
                      <懇親会>  
                      南九州大学生協食堂

3. 日 程

9/2 (土)	■受付 9:30~	■自由研究発表 10:00~12:30	■昼食・休憩 12:30~13:30	■総会 13:30~14:20	■現地 シンポジウム 14:30~17:00	■懇親会 シンポジウム 終了後 (17:30~19:30 予定)
9/3 (日)	■受付 9:30~	■学会 シンポジウム 10:00~12:30	■閉会 12:30~			

4. 参加費            <研究大会>    会員：1,500円    非会員：500円    学部生：無 料  
                      <懇親会>        3,500円（要、事前申込）

※大会1日目9月2日（土）シンポジウム終了後から懇親会を開催します。

参加費は3,500円です。

参加を希望される会員は、氏名、所属、連絡先を **2017年8月23日（水）までに、**  
**学会事務局（[info@seikatsu-t.org](mailto:info@seikatsu-t.org)）までご連絡ください。**

※当日、大学の食堂は営業していません。昼食は近隣のコンビニエンスストアもしくはレストランをご利用ください。

1日目(9月2日)

■ 9:30~ ■■■ 受付

---

(3号棟1F ロビー)

■ 10:00~12:30 ■■■ 自由研究発表

---

個人発表 25分(20分発表 5分質疑) / 共同発表 30分(25分発表 5分質疑)  
\*共同研究の発表者には○を付しています。

司会: 中川 忠宣(大分大学)

---

(3号棟2F 3202中講義室)

10:00~10:25 幼児の日常生活と親のかかわりに関する考察(3)  
—園の特性や保護者の認識に関する視点から—  
○菅原 航平(佐賀女子短期大学)  
永田 誠(大分大学)  
上野 景三(佐賀大学大学院)  
大村 綾(佐賀女子短期大学)

10:25~10:50 保育参加を通じた親の気付きに関する考察  
—第二赤間保育園における「一日保育士体験」を事例に—  
○大村 綾(佐賀女子短期大学)  
永田 誠(大分大学)  
上野 景三(佐賀大学大学院)  
菅原 航平(佐賀女子短期大学)

10:50~11:15 豊かなつながりをつくる幼児期における学習機会の提供  
—「くまもと『親の学び』プログラム」の取組み—  
古賀 倫嗣(熊本大学)

11:15~11:40 子どもの体験学習とレジリエンス  
---福岡市玄界島における復興事例を中心に---

井上 豊久(福岡教育大学)

11:40~12:30 総括討議

■ 13:30~14:20 ■■■ 総会

---

(3号棟2F 3202中講義室)

## 幼児期からの生活体験

幼児教育については、2010年の「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」で大きな枠組みが示され、今回、中央教育審議会等での審議を受け「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が提案された。このことは、次期「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」でも重視されており、具体的には、「健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、数量・図形、文字等への関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現」など、小学校以降の教育課程を貫く理念「生きる力」の具現化において求められる内容を明らかにするものといえよう。このような状況を鑑み、幼児期からの子どもの育ちにおいて生活体験の実践がますます求められているという認識に立ち、「幼児期からの生活体験」について議論をしていくために、以下の2部構成によるシンポジウムを企画した。

第1部の宮崎の保育・幼児教育実践発表では2つの事例を報告する。1つ目の発表は、あいいく幼稚園の椎葉恵子園長から、子どもの基本的な生活習慣習得とともに自然を活かした環境の中で取り組んだ保育実践について報告していただく。2つ目は、岡山孤児院をつくった石井十次の曾孫であり、石井記念友愛社の児島草次郎理事長から、児童養護施設で暮らしている子どもの自立支援の在り方について報告していただく。

第2部では、第1部の2つの保育・幼児教育実践の事例を踏まえて、「家庭」・「地域」・「子どもの育ち」という三つの視点から報告する。「家庭」では、教育心理学が専門で宮崎公立大学の野崎秀正氏が、現在の乳幼児や子育て家庭を取り巻く社会の状況や、現代の親たちの生活体験に対する認識、さらには保育・幼児教育施設（以下、「施設等」とする。）と家庭の生活体験の連続性について報告する。「地域」では、教育社会学が専門で南九州大学の山田裕司氏が、生活体験を支える施設等における実践を充実するための取組や、施設等と地域の連携・協働の目指す姿などについて報告する。「子どもの育ち」では、子どもの環境心理学が専門で宮崎国際大学の山下智也氏から、生活体験が子どもの育ちにもたらす意義について報告する。

本シンポジウムでは、幼児期からの生活体験の議論をより深めるために、コーディネーターとコメンテーターを配置する。コーディネーターは、本学会副会長で教育社会学の視点から幼児教育や家庭教育の調査研究に取り組んでいる熊本大学の古賀倫嗣氏が務める。コメンテーターは本学会初代会長で言語心理学が専門の福岡教育大学名誉教授の横山正幸氏が務める。

本シンポジウムでは、学術分野からの解釈に留まらず、保育・幼児教育現場で働く保育士等の方にも「乳幼児期における生活体験の大切さ」が実感していただける分かりやすい内容を目指す。

### 【シンポジスト】

#### 【第1部】実践発表

椎葉 恵子 (学校法人西都学園 あいいく幼稚園 園長)

児島 草次郎 (社会福祉法人 石井記念友愛社 理事長)

#### 【第2部】ディスカッション

野崎 秀正 (宮崎公立大学)

山田 裕司 (南九州大学)

山下 智也 (宮崎国際大学)

【コメンテーター】 横山 正幸 (福岡教育大学名誉教授)

【コーディネーター】 古賀 倫嗣 (熊本大学)

2 日目（9 月 3 日）

■ 9 : 30～ ■■■ 受 付

（3号棟1F ロビー）

■ 10 : 00～12 : 30 ■■■ 学会企画シンポジウム

（3号棟2F 3021中講義室）

## コミュニティ・スクールにおけるカリキュラムづくりをどうすすめるか ーカリキュラムづくりへの地域・保護者参加と体験学習の構築ー

今回のシンポジウムは、地域・保護者・学校による学校教育カリキュラムづくりと、カリキュラムへの体験学習の位置づけについて議論します。

平成 28 年 12 月、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が公開されました。そこでは、「“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちが育む『社会に開かれた教育課程』」の実現が基本方針として示されています。

そして、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動（以下CS等）には、育てたい資質・能力、学校教育と社会とのつながりについて、地域と学校が認識を共有することが求められています。また、学校教育は、「変化する社会の動きを取り込み、世の中と結び付いた授業等を展開していけるようにすることも重要である」と指摘しています。

ですが、現実にはいくつかの課題があります。例えば、CS等の多くは、学校の求めに応じた支援活動が中心です。また、教育課程を社会に開くということは学校の社会化を目指すようであり、逆に学力向上への動員（社会の学校化）につながることも懸念されます。

学校教育のカリキュラムを社会に開く上で、地域と保護者が参加してカリキュラムをどうつくり、どう実施していくのかについては検討が必要です。今回は、こうした問題意識のもと、四人の報告者に先進的な実践事例やデータをふまえた報告を行っていただき、多角的に議論していきます。皆様、ふるってのご参加をお待ちしております。

### 【報告者】

伊東 俊昭 （佐伯市立宇目緑豊小学校校長）  
中川 忠宣 （大分大学／別府市立石垣小学校学校運営協議会委員長）  
朝倉 脩二 （都城市庄内地区まちづくり協議会事務局長）  
植村 秀人 （南九州大学）

### 【司会】

上野 景三 （佐賀大学）  
長尾 秀吉 （別府大学）

## ■□■□■□■事務局からの連絡■□■□■□■

### ◆書籍販売◆

当日は、会場内で生活体験学習の関連書籍の販売を行います。販売書籍がある場合、必ず事前に学会事務局（info@seikatsu-t.org）までご連絡ください。個人での持込み販売は、ご遠慮ください。

### ◆会場案内◆

#### ■南九州大学宮崎キャンパス（研究大会会場）

〒880-0032

宮崎県宮崎市霧島5丁目1-2

TEL.0985-83-2111

FAX.0985-83-3383

#### <鉄道>

JR九州・日豊本線

- ・宮崎神宮駅から徒歩20分
- ・宮崎駅からバス

#### <バス>

各路線 デパート前から平和台行き乗換  
デパート前⇄霧島4丁目 約10分

#### <高速道路>

九州自動車道⇄えびのJCT  
⇄宮崎自動車道⇄宮崎IC

#### <高速バス>

##### 【フェニックス号】

福岡天神バスセンター⇄宮交シティ  
⇄デパート前 1日24便

##### 【ブルーロマン号】

長崎駅前⇄宮交シティ⇄デパート前 1日2便

##### 【なんぶう号】

熊本交通センター⇄宮交シティ⇄デパート前 1日12便

##### 【はまゆう号】

鹿児島中央駅前⇄鹿児島空港⇄宮交シティ⇄デパート前 1日10便

※詳細は南九州大学HPをご覧ください



### 日本生活体験学習学会 事務局

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 大分大学教育学部永田研究室内

TEL/FAX: 097-554-7559

E-mail info@seikatsu-t.org

### 第19回研究大会 宮崎大会実行委員会

〒880-0032 宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地

宮崎国際大学教育学部相戸研究室内 TEL: 0985-85-5931 (代表)

(研究大会に関するお問い合わせは、学会事務局まで E-mail にてお願いします。)